

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

対象 学科	科目名	担当教員	担当教員の主な 実務経験	授業内容
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科  理 学 療 法 学 専 攻	整形外科学Ⅰ	長谷 好記	整形外科専門医 リハビリテーション 科専門医	整形外科疾患の病態、診断学、治療法について学び、理学療法士・作業療法士として要求される基礎的な知識の習得を目指す。 <u>整形外科およびリハビリテーション科専門医の臨床経験を生かし、臨床で働き始めてからも役に立つ授業を行う予定である</u>
	整形外科学Ⅱ	長谷 好記	整形外科専門医 リハビリテーション 科専門医	整形外科疾患の病態、診断学、治療法について学び、理学療法士・作業療法士として要求される基礎的な知識の習得を目指す。 <u>整形外科およびリハビリテーション科専門医の臨床経験を生かし、臨床で働き始めてからも役に立つ授業を行う予定である</u>
	運動系機能能力 評価学Ⅱ	加藤茂幸	理学療法士として病 院勤務（1995-2003）	運動系機能評価学Ⅰに引き続き、理学療法における各種検査の知識および技術を習得することを目的に講義を進める。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	運動系機能能力 評価学実習Ⅱ	加藤茂幸	理学療法士として病 院勤務（1995-2003）	運動系機能評価学Ⅱで学んだ内容をもとに実技形式で実施し、理学療法における各種検査の基本的知識および技術の習熟を目的とする。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	運動学	木藤 伸宏	理学療法士として病 院勤務 (1989～2005)	理学療法において、運動学は最も重要な専門基礎科目である。本授業は全ての医療職にとって必要な基礎科目である解剖学、生理学を基盤として、身体の運動を理解し、身体の構造、機能、そして運動に興味を持つことを目的とする。  医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻	運動学実習	木藤 伸宏	理学療法士として病院勤務 (1989～2005)	本講義では理学療法の基本学問となる「運動学」についての知識の修得を第一の目的とし、特に関節バイオメカニクスと基本運動・動作の異常に焦点を当て疾病予防、疾病からの回復、健康の維持増進の援助者となるための基礎を築き、さらにこれらの知識と臨床場面とのつながりを考える能力を養う。  医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。
	臨床運動学	木藤 伸宏	理学療法士として病院勤務 (1989～2005)	本講義では理学療法の基本学問となる「運動学」についての知識の修得を第一の目的とし、特に関節バイオメカニクスと基本運動・動作の異常に焦点を当て疾病予防、疾病からの回復、健康の維持増進の援助者となるための基礎を築き、さらにこれらの知識と臨床場面とのつながりを考える能力を養う。  医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。
	臨床運動学実習	木藤 伸宏	理学療法士として病院勤務 (1989～2005)	ヒトの姿勢観察、動作観察ができるための正常と病態を有する動作を学習し、その問題を説明できるようになる。  医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。
	臨床理学療法演習	木藤 伸宏	理学療法士として病院勤務 (1989～2005)	急性期、回復期の症例をもとに、それぞれのシチュエーションにおける問題解決方法を学び、問題解決を行なう。医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。
	徒手療法学	木藤 伸宏	理学療法士として病院勤務 (1989～2005)	1) 徒手理学療法の適応を理解する。 2) 神経筋骨格系の各組織・器官の生物学的特性と治癒過程を理解する。 3) 神経筋骨格系の各組織・器官に生じる理学療法治療概念を理解する  医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻	中枢神経系理学療法治療学Ⅱ	松浦 晃宏	理学療法士として病院勤務 (1999～2018)	神経疾患の理学療法を展開する為に、各疾患の病態と障害の特徴、理学療法の評価と治療について学修する。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	神経系機能能力評価学	松浦 晃宏	理学療法士として病院勤務 (1999～2018)	神経疾患の機能障害及び能力障害に対する理学療法評価の基本的な検査・測定手技を学修する。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	理学療法管理運営学	徳森 公彦	理学療法士（部門副主任）として老健で勤務（2000～2001） 学校法人の立ち上げ業務（2005～2006）	部門運営、組織マネジメントに関与した経験を活かし、臨床実習および就職後に必要なコミュニケーションや管理について実践的な授業を行っている。
	生活支援系評価学	徳森 公彦	老健および病院で勤務（1998～2006）	<u>老健や病院ダイケア等を通じて主に高齢者の理学療法を実施した経験を活かし、維持期のリハビリテーションにおける評価の必要性について実践的な授業を行っている。</u>
	生活支援系理学療法治療学	徳森 公彦	老健および病院で勤務（1998～2006）	<u>老健や病院ダイケア等を通じて主に高齢者の理学療法を実施した経験を活かし、維持期のリハビリテーションにおける治療法について実践的な授業を行っている。</u>
	生活支援系理学療法治療学実習	徳森 公彦	老健および病院で勤務（1998～2006）	<u>老健や病院ダイケア等を通じて主に高齢者の理学療法を実施した経験を活かし、維持期のリハビリテーションにおける治療法について環境調整や ADL 指導などを実践的に展開している。</u>
	理学療法概論	後藤 力	理学療法士として病院勤務 (1994～2008)	理学療法士としての臨床経験を基に、患者さんに対する心構えや、具体的な疾患について学生に提示している。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	内部系機能能力評価学	後藤 力	理学療法士として病院勤務 (1994～2008)	理学療法士としての臨床経験を基に、患者さんに対する心構えや、具体的な疾患について学生に提示している。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。

# 実務経験のある教員等による授業科目一覧

## リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻	内部障害理学療法治療学	後藤 力	理学療法士として病院勤務 (1994~2008)	理学療法士としての臨床経験を基に、患者さんに対する心構えや、具体的な疾患について学生に提示している。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	内部障害理学療法治療学実習	後藤 力	理学療法士として病院勤務 (1994~2008)	理学療法士としての臨床経験を基に、患者さんに対する心構えや、具体的な疾患について学生に提示している。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	運動療法学	後藤 力	理学療法士として病院勤務 (1994~2008)	理学療法士としての臨床経験を基に、患者さんに対する心構えや、具体的な疾患について学生に提示している。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	卒業研究	後藤 力	理学療法士として病院勤務 (1994~2008)	広島大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 博士後期課程 修了[博士(保健学)]および広島大学大学院 医歯薬総合研究科 創生医科学専攻 博士課程 博士(医学)と2つの博士号を有しており長年の研究への関わりを基に学生に論文作成の楽しさを理解してもらえるように努めている。また病院勤務での勤務経験を活かし、より臨床を意識した実践的な授業を展開している。
	人間発達学	内田 茂博	理学療法士として病院勤務 (2002~2013)	<u>小児期および発達障害領域ならびに老年期におけるリハビリテーションに必要な知識</u> である、 <u>人間発達の過程と諸活動および諸機能の関係を理解する。</u>
	発達障害学	内田 茂博	理学療法士として病院勤務 (2002~2013)	<u>発達障害をもたらす小児疾患の全体的概要を理解する。</u>
	発達障害学理学療法学	内田 茂博	理学療法士として病院勤務 (2002~2013)	<u>発達障害児に対する理学療法を理解する。</u> <u>発達障害児の運動障害に対して評価、治療を計画できるようになる。</u>
	義肢装具学Ⅱ	内田 茂博	理学療法士として病院勤務 (2002~2013)	<u>理学療法士が臨床でかかわる義肢・装具(靴型装具)の構造と機能について材料工学、力学的背景を踏まえて基礎知識を理解する。</u> <u>さらに各疾患に対応した義肢装具の適合判定に必要な知識技術を理解する。</u>

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻	運動学実習	内田 茂博	理学療法士として病院勤務 (2002～2013)	本授業は全ての医療職にとって必要な基礎科目である解剖学，生理学を基盤として，身体の運動を理解し，身体の構造，機能，そして運動に興味を持つことを目的とする。 <u>医療機関での理学療法士としての勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	運動系機能能力評価学実習 I	内田 茂博	理学療法士として病院勤務 (2002～2013)	<u>運動系機能における問題点を判断するために必要な、検査・測定の手法（形態測定、関節可動域測定）および関節別の評価方法を習得する。</u>
	物理療法学	小澤 淳也	理学療法士として病院勤務	生体への温熱、寒冷、光、電気、機械的刺激などを利用した物理療法は、理学療法の治療の一環として広く行われている。各種物理療法の作用、治療対象、効果機序などを修学することを目標とする。 <u>整形外科病院での勤務経験を生かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	物理療法学実習	小澤 淳也	理学療法士として病院勤務	各種物理療法が安全にかつ効果的に使用できるよう、患者役の学生に対し模擬治療を行う。さらに、治療効果を様々な指標で評価することで、物理療法の臨床と研究への応用方法を修学することを目標とする。 <u>整形外科病院での勤務経験を生かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	地域理学療法学	小澤 淳也	理学療法士として介護保険施設に勤務	地域リハビリテーションを理解する上で重要な ICF の概念、リハビリテーションサービス提供する法的基盤となる介護保険の導入に至る背景、提供されるサービスの実際、やその役割を修学することを目的とする。 <u>介護保険施設での勤務経験を生かし、より実践的な授業を展開している。</u>

# 実務経験のある教員等による授業科目一覧

## リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻	地域在宅理学療 法学演習	小澤 淳也	理学療法士として介 護保険施設に勤務	地域を学びの場としながら、地域生活者の健康維持・増進や治療的リハビリテーションに必要な実践的能力を高める。実際に地域高齢者と交流を持つ中で、対人能力を高めるとともに、地域リハに関心を持ち、活躍できる理学療法士を養成する。 <u>介護保険施設での理学療法士としての勤務経験を生かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	卒業研究	小澤 淳也	理学療法士として病 院・介護保険施設に 勤務	理学療法場面で直面する様々な機能障害の形成機序の解明や治療効果の検討を主なテーマとして動物実験を行う。論文作成の過程で、様々な文献やデータを用いて、解析や考察を行い専門的な知識を一層深める。 <u>理学療法士としての臨床経験を生かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	機能解剖学	平元奈津子	理学療法士として病 院 勤 務 （ 2000 ～ 2005）	正常な運動・動作に必要な身体構造やそれらの解剖学的関係性について、関節およびその周囲組織に焦点を当てて学修することを目的とする。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	運動系機能能力 評価学 I	平元奈津子	理学療法士として病 院 勤 務 （ 2000 ～ 2005）	理学療法を展開していく過程で必ず行う理学療法評価の目的と意義を理解し、評価に必要な基本的な検査・測定の手法や関節別の評価方法について学ぶ。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	内部障害理学療 法治療学実習	平元奈津子	理学療法士として病 院 勤 務 （ 2000 ～ 2005）	運動生理学に基づいて呼吸・循環・代謝疾患に対しての理学療法の実技と運動処方 の立案について習得する。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	運動系機能能力 評価学実習 I	平元奈津子	理学療法士として病 院 勤 務 （ 2000 ～ 2005）	運動系機能における問題点を判断するために必要な、検査・測定の手法（形態測定、関節可動域測定）および関節別の評価方法を習得する。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻	運動系機能能力 評価学Ⅱ	平元奈津子	理学療法士として病院勤務（2000～2005）	理学療法における各種検査の基本的知識および技術の習熟を目的とする。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	臨床運動学実習	平元奈津子	理学療法士として病院勤務（2000～2005）	ヒトの姿勢観察、動作観察ができるための正常と病態を有する動作を学習し、その問題を説明できることを目的とする。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	物理療法学実習	平元奈津子	理学療法士として病院勤務（2000～2005）	理学療法の対象となる種々の機能障害（疼痛、拘縮、筋力低下等）の発生機序や自然経過を理解したうえで、メカニズムベースでの治療方針を立案できる。各種物理療法機器に触れ、その操作手順・方法を理解し、安全に実施できる。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	義肢装具学Ⅰ（理学療法学専攻）	大窪伸太郎	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事（2000-2001）	臨床経験に基づいた義肢装具の種類や目的、構造など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた知識の習得を目指す。